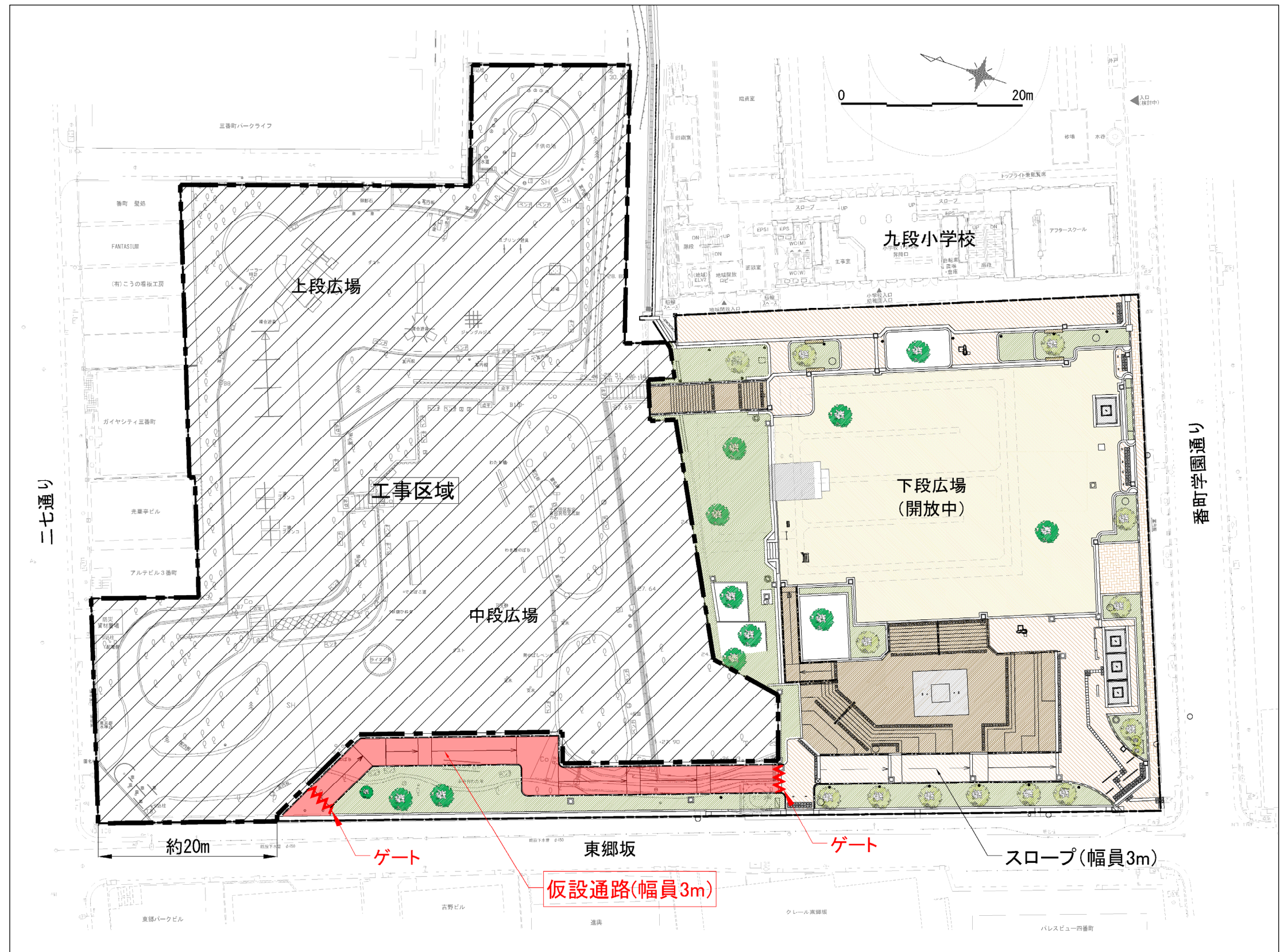


(4) 仮設通路工事

公園の完成が延伸することから、土壌対策工事終了後東郷坂沿いに通勤通学者用の仮設通路の一時開放を予定しています。

【概要】

- ・東郷坂からの出入口部分を除き、完成後のスロープと同じ幅員 3m、勾配 8%の通路とします。
- ・仮設通路は工事区域内に整備するため、東郷坂の出入口と下段広場側にゲートを設置し、平日の朝 7 時から夕方 17 時までの開放とする予定です。



仮設通路開放時平面図

2 報告事項

3) ライオン像の補修

① ライオン像の設置経緯

本公園にライオン像が設置された経緯について、「東郷（昭和 51 年 3 月号）」及び寄贈者のご令孫に伺った話をまとめると以下のとおりです。

- ・ライオン像を製作したのは、生前元帥と親交のあった別府の有力者の甲斐大蔵氏である。
- ・ライオン像は、東郷元帥の米寿(昭和 9 年)を祝うために彫られたものであり、対で 2 体製作されていた。
- ・元帥邸（現東郷元帥記念公園）に設置されたのは元帥の没後六年後の昭和十五年五月である。
- ・寄贈の際 2 体運ばれてきたが、設置場所の関係で 1 体は持ち帰り寄贈者の甲斐氏邸の一隅におかれた（現在は「天然坊主地獄」の駐車場の片隅に設置されているとのことである）。
- ・昭和二十年五月二十五日の空襲で、土蔵一棟を残して元帥邸は全焼し、ライオン像もこの時に焼傷を受けたらしい。



設置当時（昭和 15 年：1940 年）のライオン像



改修工事前（平成 27 年：2015 年）のライオン像

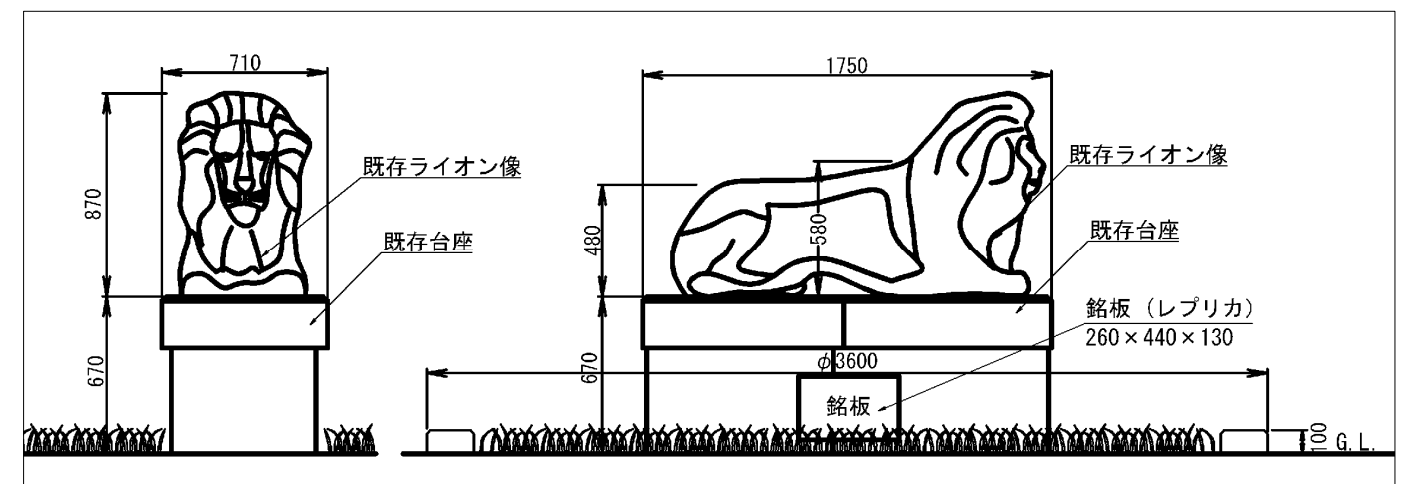


大分県別府市「天然坊主地獄」にあるもう 1 体のライオン像

③ 整備方針の確認：第 2 2 回協議会にて決定したライオン像周辺整備方針

前回協議会にて決定したライオン像周辺整備方針は以下のとおりです。

これまでどおりライオン像の周りを植栽地とし、ライオン像に近づきにくい構造とし、植栽は低木ではなく地被類とし、銘板が見えるように配慮します。



2 報告事項

③ライオン像の現況

背中・腰回りや台座に亀裂、たてがみ・眼球・前足後足・尾部に欠損がみられます。台座に埋め込まれていた銘板も、刻まれた文字のほとんどが判別できないほど損傷しています。

<側面状況>



<背面状況>



④ライオン像の補修内容

ライオン像の補修については、今のライオン像の姿を少しでも長く保全することを前提に、以下を実施します。

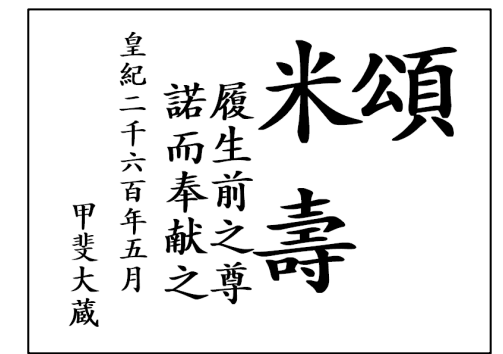
- ・ 本体（背部、腰回り）：亀裂補修
- ・ 台座：亀裂補修＋クリーニング実施
- ・ 銘板：再製作
- ・ 全体：劣化保護用コーティング（砂岩用、吸水防止及び汚れ防止効果）実施

■銘板再制作について

銘板の損傷が激しく、補修してもまた損傷するおそれがあるため、レプリカを製作・設置します。現在の銘板は区にて保管します。



銘板状況



銘板内容（東郷《昭和 51 年 3 月号》より推定）

4) 震災復興サインの設置

- ・東京都の関東大震災100年事業として、本公園に震災復興公園についての案内サインを設置したいとの話がありました。
- ・復興小公園とは、関東大震災後の帝都復興事業として、東京市が「小公園と小学校を一体」整備した公園であり、その復興小公園についての案内サインであることから、小学校の建物を背景として一緒に見ることができる下段広場の右の場所に設置を考えています。

■復興小公園案内サイン（案）（板面サイズ：縦60cm×横90cm）

関東大震災 復興小公園

The Great Kanto Earthquake of 1923
Small Reconstruction Parks

関東大震災（1923年9月1日）では、火災が鎮火した要因の一つに公園緑地や広場が焼け止まりとして機能したことがわかり、公園設置の重要性が高まりました。東京市はこれを踏まえ、震災の焼失区域において、震災復興公園として52か所の小公園を整備しました。

小公園は、小学校に隣接して整備され、近隣住民の憩いの場や地域コミュニティの中心、地域における防災拠点のほか、校庭の延長や教材園などとしての役割を担ってきました。

本園は帝都復興計画による小公園のひとつで、麹町区上六小学校の西隣にあり園の南側及び西側は街路に面し、北部は一段高い東郷元帥邸に接していました。

園は東西の二部からなっており、東部は約850㎡の自由広場で、周囲は樹林で囲まれており、広場内には緑陰樹を列植し北側正面には一段高く休憩所及び藤棚を設け、その背面の植え込みには上段のプールより溢れ出る流水を導きそこに水生植物を配置しました。広場の西側にはすべり台、砂場を中心にブランコ、シーソーを備え児童遊戯場としました。西部は広場より一段高い台地にして、長さ25メートル、幅6メートルの少年用遊泳プールを設け、その東側及び南側に更衣室、シャワーを備えました。その用水は、地下水を動力で汲み上げ給水するものになりました。

この施設は麹町区の寄付で作られました。入り口は西部街路側にか所、南部街路側に二か所を設けそれぞれ簡単な扉を設置しました。街路沿いには低いコンクリート塀および柵を設け、民地側には金網柵をめぐらせ植込み地には低い生垣を作りました。なお便所、詰所、路床、照明等の諸施設は園内適所に配置しました。



開設当初の図面（都立図書館収蔵）
Drawing at the time of opening.

東郷元帥記念公園

Togo Marshal Memorial Park

Following the Great Kanto Earthquake (September 1, 1923), it was found that open spaces and greenery in parks played a major role in helping to extinguish the post-earthquake fires that ravaged the city by acting as firebreaks, which in turn elevated the importance of establishing parks.

Based on this knowledge, the then City of Tokyo developed 52 small parks as part of reconstruction efforts in the areas destroyed by fire.

In addition to serving as places for local residents to relax, centers for the local community, and local disaster prevention bases, the small parks developed next to elementary schools have also been used by the schools as an extension of the school grounds or as an educational tool to teach children about the plants and flowers growing there.

The parks not only became symbols of recovery and reconstruction following the quake, but also served as models for the subsequent development of city parks and children's parks.

This park was one of the small parks under the Imperial Capital Reconstruction Plan, and was located next to Ueroku Elementary School in Kojimachi Ward. This park consists of two parts, the east and the west. The eastern part is a free space of about 850 square meters, surrounded by trees. In the rear shrubbery, the running water from the upper pool was guided and aquatic plants were placed there. On the west side of the plaza is a children's playground equipped with a slide, a sandbox, swings and a seesaw. The west side of the park is a plateau higher than the plaza, with a 25-meter-long, 6-meter-wide children's swimming pool, and changing rooms and showers on the east and south sides. The irrigation water was pumped up by power and supplied with groundwater. This facility was built with donations from Kojimachi Ward. There is one entrance on the western street side and two entrances on the southern street side, each with a simple door. Low concrete fences and fences were built along the streets, wire mesh fences were built on the private land side, and low hedges were built on the shrubbery. In addition, various facilities such as toilets, staff rooms, roadbeds, and lighting have been placed in appropriate locations within the park.



関東大震災100年



東京都



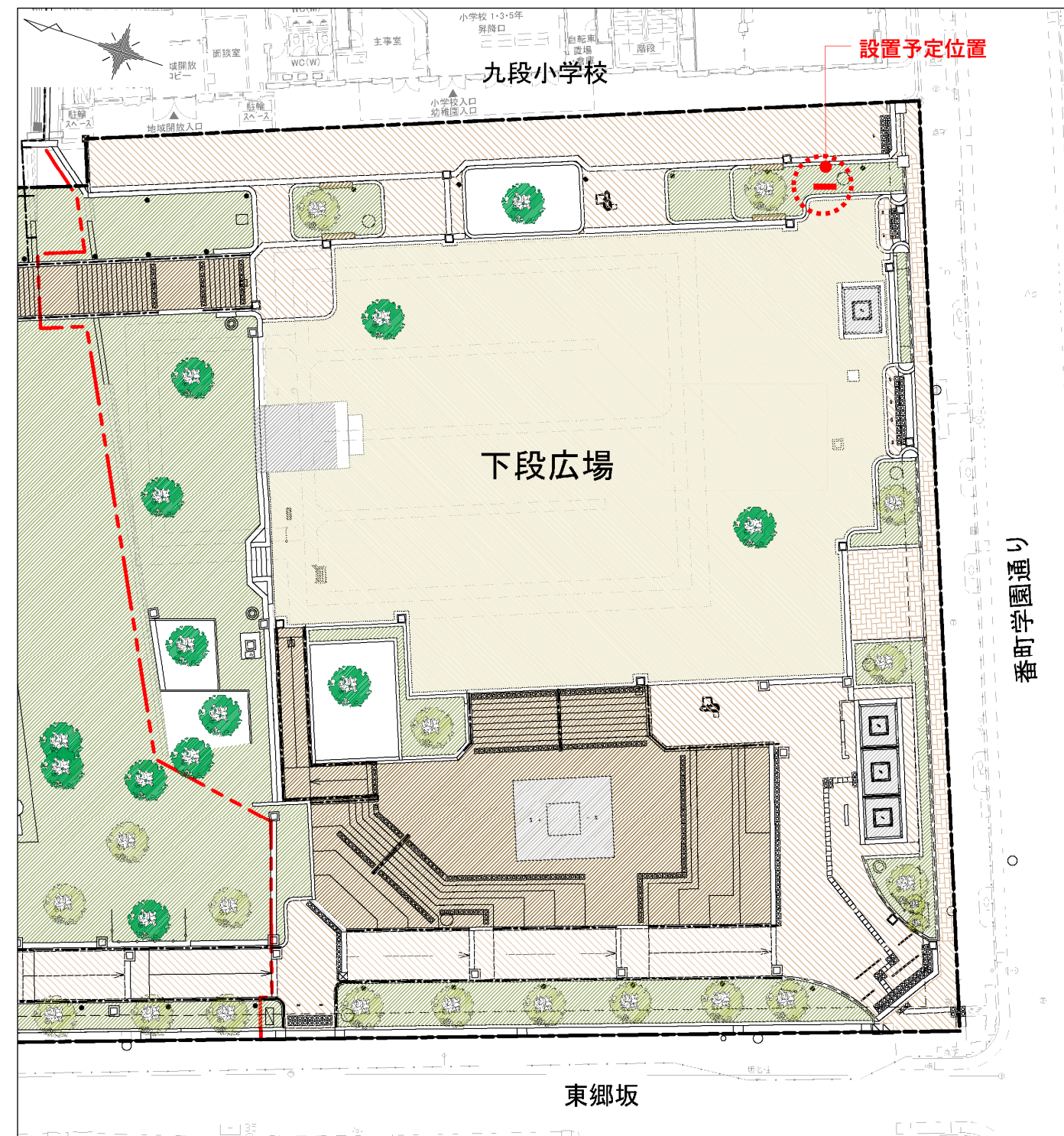
千代田区
Chiyoda City

詳細はこちら



For more information

■サイン設置位置（案）



2 報告事項

5) 第2回イベント（下段広場利活用イベント）開催報告

地域の方々に東郷公園をより身近に感じてもらい、今後の公園の維持管理活動に関わっていただくきっかけづくりとなるようなイベントを開催しました。

開催日時：令和4年12月4日（日）10：00～15：00 晴天
実施場所：東郷元帥記念公園 下段広場
参加人数：約700人（①焼き芋づくり体験：226人、⑥自然遊びコーナー：延べ400人）

実施したプログラムの内容は以下のとおりです。
地域住民発案のイベントについては、今後も継続的に開催していく予定です。

■協議会発案のイベント

①焼き芋づくり体験



②薪割り・ストーブコーナー



③公園紹介コーナー



■地域住民発案のイベント

④自然遊びコーナー（協力）TOKYO PLAY

落ち葉等公園の特性を活かした遊びを見つけてみんなで自由に遊ぶ



⑤「やりたいことの木」コーナー

公園でやってみたいこと等を記入し
掲示、また共感する案に投票



⑥コミュニティガーデンづくり体験

花苗の植え付けの体験や、小ライオン
像の着せ替えを体験



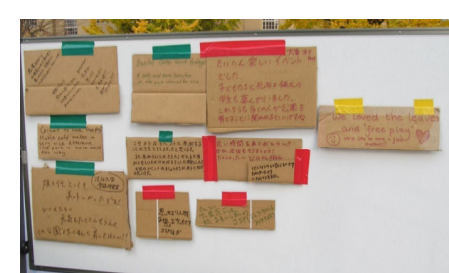
⑦カフェコーナー

移動式カフェで飲み物等を販売



参加者等からのメッセージ

イベント参加者や関係者の方からの
感想やお礼のメッセージ



6) 下段広場の利用について

(1) 下段広場の利用実態調査研究報告

「都市公園再整備における利用実態変化―千代田区東郷元帥記念公園を対象として」
(令和4年度法政大学デザイン工学部卒業論文)
発表者：松岡明佳里

(2) 下段広場の現状の利用状況

下段広場の現状の利用状況（R4.4.1～R5.6.30時点）は以下の通りです。

①公園全体の利用の主なご意見

	公園利用のご意見
1	ボール遊びに対するご意見
2	ボール遊び以外の遊びに対するご意見 （トイレ、東屋等の施設へ登る、石投げ等）
3	ゴミ捨てに対するご意見
4	中学生や高学年が多く、小さい子が利用しづらい

②公園施設の破損状況

	公園施設の破損報告
①	水飲みの蛇口の破損（5回）
②	トイレ屋根の破損（1回）
③	トイレ照明破損（1回）、足元照明のぐらつき（8基）
④	地被類及び芝等の剥ぎ取り、低木の抜き取り
⑤	ウッドデッキ点検口取っ手破損（1回）